

## 第5回 歴史資料館（仮称）検討有識者会議

日時 平成16年9月30日（木）午後6時～8時30分

場所 総合体育館2階「クレア」

出席者 土屋市長、小池牧子委員、中里崇亮委員、西脇康委員、舩崎尚委員、三浦展委員

### 1. 意見交換及び提案

【市長】

集客については、なかなか決め手がない。委員が言っていたように、集客だけを考えてはいけませんが、しかし手塚治虫館でさえ、ずいぶん大変のようだ。

【委員】

吉祥寺美術館は、努力して毎回何かやっている。

【委員】

高齢者の生涯学習のためにつくると、広く市民の地元への愛着心を育てるものをつくるのとは違うので、何をもちて事業の成功とみなすかという基準が必要だ。

【市長】

市史編さん室が核になり、たとえば、ムーブスの誕生までといったイベントを行う。前の市長の時代までは市史編さんは済んでおり、集めた資料に基づいて何か行うという考え方もあるが、そうした資料だけでは企画が続かない。

【市長】

いまひとつこれでいいというものがない。武蔵野市にはいろんな人物が多いが、文化講演だとか生涯学習的な講座などを考えてもよい。これは企画する人間の能力にもよる。

【委員】

雑誌の編集者などが、館長やるぐらいの感覚じゃないといけない。学芸員の感覚ではだめだ。

【委員】

ホームページ上に、歴史資料館をオープンするのはどうか。

【委員】

バーチャルミュージアムは時代的にはよい。本当の資料は、美術館などで移動資料館型の展示もしてもらおうとか。

【委員】

ホームページなら、全国からいろんな人が見るだろう。

【事務局】

インターネット博覧会や、デジタルミュージアムが始まっているところだが、維持経費や外部からのアタックといった問題点があるそうだ。

【委員】

しかし、インターネットもひとつの手だ。

【委員】

ここ数年で退職者が多く出て、60～70代が人口のなかで増えている。若い人よりは自由に使える時間やお金もある。ちょっと博物館にいてみようっていう人達を視点に置かないといけない。

【市長】

例えば、文化会館に来た人が、歴史資料館の券も付いているので、ついでに回れるような形にすればどうか。音楽コンクール関係の資料もあるなら、結構来るかもしれないので、セットにすると考えられる。

【委員】

年中行事などもあったら、すごくいいと思う。

【委員】

そういう地域の情報をキャッチして、それを上手に公開していく機能を持たせたい。図書館に近いところできると考えると、図書館に来るような人はそういった方面にも関心がある。

【委員】

図書館との相乗効果はあるのではないかと。図書館と隣同士というのはよいと思う。

【委員】

展示の目玉はどうなるのか。

【委員】

人を集める時に、何か仕掛けをするような形になるのではないか。

【委員】

市長がおっしゃったように、目指すのは人の魅力だ。人物を常に登場させて、講演会という地味なものだけではなく、もっとイベント的に派手に行うとか。

【委員】

あんまり大掛かりに人を集めるのではなく、小さなお話会のような形でも、その人に逢えるというのなら気楽に来てもらえるのでは。

【委員】

信州の美術館に行ったとき、1対1で解説しながら案内してくれた。

【委員】

説明が欲しい人に対応できるような解説員がいる施設はあまりない。

【委員】

やはりある程度、説明がなければ面白くない。そうした人材を育成することは大切だ。

【市長】

問題は、何を集めて何をみせるかだ。確かに公文書だけでは人は来ない。

【委員】

図書館だと公文書的なものと郷土資料的なものがあり、それがコーナーになっているが、一般の人と比べるときわめて少ない。

【市長】

市にも歴史的に貴重なものもある。明治の頃の古地図など。

【事務局】

明治8年頃に作られた4カ村の絵図で市の文化財になっている。また、先月、遺跡の見学会に約800人の方が参加された。今年の文化財の展示も、7月の七夕飾りには、短冊が毎日足りないくらいだった。

【委員】

イベントとしては面白い。

【委員】

小・中学生が学習の中で利用することになればどうか。

【委員】

そこで説明ができたり、実演ができたりすると非常によいのでは。体験型のものも必要だ。

【委員】

火をおこしてみようとか、どこでもやっているが、武蔵野はどうか。

【委員】

今は総合学習の時間があるから、比較的組みやすい。

【委員】

武蔵野の水50年で、小学生は随分勉強したそうだが、そういう体験のヒントはどうか。

【委員】

実は、山梨の身延町の博物館で、古くなったウィンドウズを並べて、子どもに開放している。子どもがどんどん来て、いろんなものを探して遊んで帰る。

【委員】

産業の方が、日常生活に結びつくようだ。

【市長】

歴史資料館に各業種の歴史を集めるのはどうか。

【委員】

歴史文化博物館系の考え方と、産業博物館系の考え方をうまくクロスすると面白い。歴史博物館だと時代ごとの展示が当たり前だが、産業ごとに縄文土器は食器だったとか、武器だったとか、そういうくくりにすると、武蔵野市は頭が柔らかいと評判になるかもしれない。

【委員】

展示には触ってもよいというものをつくらないといけない。私は縄文土器の本物を出して、触らせてもよいと思う。

【委員】

企画や展示についても、武蔵野市内に限るのではなくて、隣接の三鷹や杉並など一緒にやれたら幅が広がる。

【市長】

従来の歴史博物館にある時代区分など、切り口を時系列ではなく、モノとモノをつなげてみるとどうなるか。後は企画力だ。

【委員】

武蔵野市はよい住宅地というイメージがあるが、市内だけをミュージアム的に見てみましようといっても限界がある。他のところも見て、つまり、武蔵野市の歴史文化ミュージアムで企画展示するものは当然文京・四谷・杉並あたりにも回ってくるという企画であるべきだ。それで初めて武蔵野の位置付けがわかるという形に組めればどうか。

【委員】

行政資料から、住民の通勤先を時代ごとにわかるか。吉祥寺とか武蔵野市に住む人々がどの辺に勤め先をもっているかをやっても面白い。武蔵野市の人はどこにお勤め？といった発想だ。

【委員】

武蔵野市民は本当に文化的な職業の人が多いのか。たまたま目立っていた人がいただけなのかということが分かる。

【委員】

別の角度からみると、吉祥寺や武蔵野にどういう人に来てもらうか、賑わいをどう維持するかというテーマはある。産業振興的に考えると、集客はいらぬとはいえない。やはり、面白いというものが要だと思う。

【委員】

私はよそから来る事より、まず市民が関心をもつことが一番大事だと思う。やはり市民のためにつくるのだから、他市からどんどん集客するのは、企画展でやっていくようにしていかないと。普段は市民が利用して文化を高めることが基本だと思う。

【委員】

武蔵野にお住まいの60代70代の方が、遠くから孫が来た時、孫をどこに連れて行くのか。井の頭公園でポートなのか。他に見に行くところがないのか。

【委員】

武蔵野市に来て、何をみるかという発想はよい。

【市長】

やはり、最後は決め手だ。写真などがひとつのポイントになるが、市で過去の写真を集めることもよいのだが、例えば市史編さんといった軸を中心にして、そこで写真を集める。その結果、展覧会をやっていくなどの方法が考えられる。

【委員】

公開に先立って、収集することだ。

【市長】

歴史資料館が出来上がる前に、まずは歴史資料館活動をやっていくことが重要だと思う。